

# 百塚遺跡現地説明会資料

平成22(2010)年 7月31日(土)  
富山市教育委員会 埋蔵文化財センター  
株式会社アーキジオ



弥生時代から  
古墳時代へ

約2000~1400年前の古墳群が見つかった百塚遺跡(右上は神通川)

百塚遺跡では平成17年から主要地方道富山八尾線道路改良工事に伴う発掘調査を行っています。今年度の調査ではおもに、縄文時代晩期(約3000~2500年前)、弥生時代後期~古墳時代(約2000~1400年前)の遺構・遺物が見つかっています。中でも、弥生時代末~古墳時代の墓(古墳・周溝墓)は新たに6基が確認され、これまでの調査成果とあわせると、31基の墓がこの百塚の地で見つかりました。



## 底に穴のある!?壺(つぼ)が出土(21号墳)

左写真は、古墳時代初めの21号墳から出土した壺です。よく見ると底が丸く欠けています。これは誰かが落として割ったわけではなく、はじめから「穴を開けた壺」としてつくられたものです。  
こうした壺は、ほぼ全国的にこの時期の墓から出土する例が多く、「墓を飾るための壺」や「吊いのための壺」といった意味を持つと考えられています。

# 謎の鉄製品の正体は…(?\_?)

## (23号墳、周溝内埋葬施設)

23号墳の周溝底に掘り込まれた長方形の土坑(2.5m)からL字形の鉄製品が出土しました。鉄は土中の水分ですぐにさびてふくれてしまいます(右上の写真)。このままでは、もとの形は分かりません。そこで鉄製品のレントゲン写真を撮影すると(右下の写真)、両端に環を持つ2本の棒が連結したつくりになっていることが明らかになりました。このようなつくりを持つ古墳時代の鉄製品に、馬を制御するために馬の頭部に装着する馬具の「轡(くつわ)」があります。出土したのは轡の中でも口にくわえさせる「ハミ」と呼ばれる部分と考えられます。



奈良県巨勢山146号墳出土轡(くつわ)  
奈良県立橿原考古学研究所付属博物館2003橿原考古学研究所特別展図録第59冊『古墳時代の馬との出会い—馬と馬具の考古学—』より



## お墓の形いろいろ

弥生時代後期から古墳時代にかけて、百塚の地には多くの墓が築かれました。今までに確認されている墓の形は下図の6種類があります。

弥生時代後期に築かれた周溝墓も古墳時代の古墳も、墓穴の周りに溝をめぐらせた墓です。墓が築かれて何百年もたつと、墳丘部分が削られてしまい、周りの溝だけが見つかる例が多くあります。



方形周溝墓・方墳



円形周溝墓・円墳



前方後方形周溝墓  
前方後方墳



前方後円形周溝墓  
前方後円墳

## なぜ発掘してるの？

富山市教育委員会では、新しく開通する県道の整備で失われてしまう「貴重な埋蔵文化財」を写真や図面に記録して残しておくために、平成17年度から百塚遺跡や百塚住吉遺跡で発掘調査を行っています。今年度は5月から9月まで調査を実施します。

## 百塚遺跡とは？

弥生時代から古墳時代へ

百塚遺跡は縄文時代前期(6000年前)から現代に至るまでの様々な生活の跡が発掘されています。中でも弥生時代から古墳時代に移り変わる頃(2000～1800年前)のいろいろな形や大きさの墓が発見されていることから、注目をあつめています。



SZ22 埋葬主体部



平成21年度 方形周溝墓(SZ10)  
主体部から出土したガラス製小玉

## 平成21・22年度の調査成果

昨年度からの成果を表にまとめました。

(今後の調査で、数値など変更になる可能性があります)

遺構名	遺構種類	詳細	規模				出土遺物など	備考
			墳丘規模(内径)	長さ	幅	深さ		
SZ07	墳墓主体部	主体部	-	2.96	1.07	0.78	土師器・鉄鏃	石組(人頭大の石70個)
SZ08	方形周溝墓	周溝	約6m	2.25~	0.47	0.45	弥生土器など	SZ08b・四隅に陸橋・地割れに切られる
SZ18	円形周溝墓	周溝	約8m	-	0.43	0.13		周溝一部のみ
SZ09	円形周溝墓	周溝	約8m	-	0.55	0.22	弥生土器など	
SZ10	方形周溝墓	主体部	-	2.48	1.06	0.5	ガラス小玉110点	割抜形木棺・主軸が周溝と異なる
		周溝	約6m	3.1	0.72	0.26	砥石・弥生土器など	SZ10c・四隅に陸橋
SZ11	円形周溝墓	周溝	約8m	-	0.46	0.21	弥生土器・砥石など	
SZ12	方形周溝墓	周溝	約6m	5.38	1.02	0.68	弥生土器(蓋)など	月影(弥生終末)・四隅に陸橋
		3.35		1.05	0.47	弥生土器(蓋)など	月影(弥生終末)・四隅に陸橋	
SZ13	方形周溝墓	周溝	約12m	3.1	1.66	0.55	弥生土器	
SZ14	方形周溝墓	周溝	約8m	5.73	0.8	0.38	弥生土器など	四隅に陸橋
SZ15	墳墓(円墳)	周溝	約11m	-	1.8	0.3	須恵器杯など	MT15(6世紀半ば)
SZ16	円形周溝墓	周溝	約7.5m	-	0.6	0.25	土師器・鉄釘など	陸橋
本年度調査区								
SZ17	方形周溝墓	周溝	約10m	-	1.6	0.42	弥生土器など	三隅に陸橋
SZ19	方形周溝墓	周溝・墳丘	約19m	-	2.12~	1.02	弥生土器など	二隅の陸橋を確認
SZ20	方形周溝墓	周溝	約10m	9	1.0	0.3	弥生土器など	
SZ21	墳墓	周溝	約17m	21	4.0	1.5	弥生土器など	穿孔土器
SZ22	円形周溝墓	周溝	約5m	-	0.4	0.15	弥生土器など	SZ22に切られる
SZ23	墳墓(円墳)	周溝	約13m	-	1.3	0.8	須恵器・馬具	周溝内埋葬×2 馬具出土
SZ24	方形周溝墓	周溝	約18m(推定)	-	5.0	1.0	弥生土器など	周溝内埋葬
SZ25	方形周溝墓	周溝	約5m	2	0.5	0.15		SZ22に切られる



馬具出土状況



SZ23の周溝に壊されたSZ25  
SZ23の中に埋もれてしまったSZ22

## 今回の調査で分かったこと

今回の調査で新しく見つかった古墳は6基です。縄文時代の集落跡を壊して周溝墓や古墳(以下「墳墓」と呼ぶ)が作られていることがわかりました。それらの墳墓にも時代の新旧があり、取り壊されて大きな古墳の下に埋もれてしまった古い墓があることもわかりました。最初に作られた周溝墓と新しい古墳では年代に約600年ほど開きがあると考えられます

### 6000年前から存在した集落のあと(縄文時代前期・後期・晩期)

牛ヶ首神社横のC区では、古墳の溝を埋めた土に大量の縄文土器がまじっていました。この中には石刀や石棒の破片もありました。ほとんどが縄文時代晩期(約3000年前)のものですが、それよりもさらに古い縄文時代前期(約6000年前)の土器もあることがわかりました。

あわせてD区やE-2区には、縄文時代晩期の円形土坑が4基見つっています。

### 新たに6基の墓

今までの調査で見つかった弥生時代から古墳時代の墓は6基です。今回の調査では小型の弥生時代の方形周溝墓が1基・円形周溝墓が1基です。大きなものは一辺が19m程の方墳と推定できるものが3基・その他円墳1基を発見しました。

### 「馬具」の出土

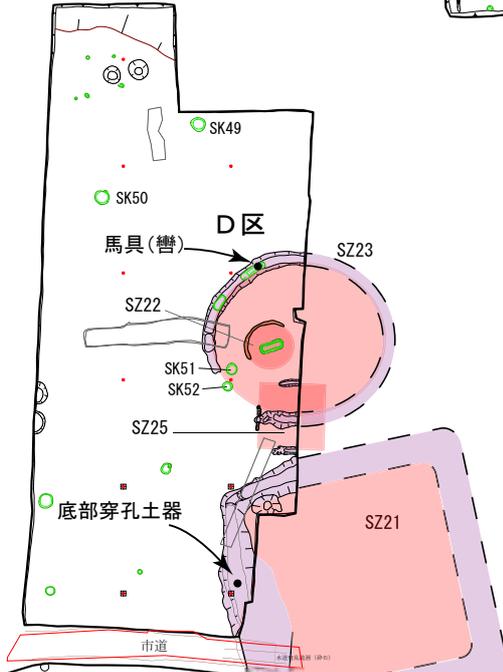
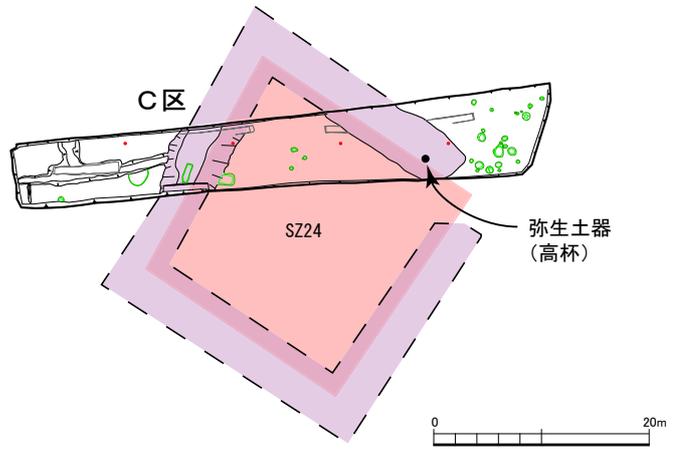
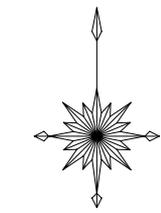
SZ23の周溝内に設けられた埋葬施設から「馬具」の「轡」一部分である「ハミ」が出土しました。古墳時代後期のものと考えられます。「轡」は馬具のなかでも馬をコントロールする最も重要な機能を持つ道具です。県内では、高岡市の矢田上野古墳や氷見市の朝日長山古墳から出土しています。

### まとめ

百塚遺跡の古墳群はSZ22・SZ25など小型のもの、SZ16・SZ18など中型のもの、SZ19・SZ21など大型のもの大きく3つの規模に分けられます。約600年のあいだ連続と墳墓が営まれていることからこの地を利用した人々は極めて安定した人数と生産基盤を数百年にわたって維持したと考えられます。

調査は9月末まで続きます。また新たな調査成果があれば、ご報告させていただきます。

[ 遺跡名 ]	百塚遺跡(ひやくづかいせき)	[ 所在地 ]	富山市百塚・松ノ木地内
[ 調査原因 ]	主要地方道富山八尾線道路改良に伴う調査	[ 調査期間 ]	平成22年5月6日～9月末(予定)
[ 調査面積 ]	2,160㎡(平成22年度)	[ 調査主体 ]	富山市教育委員会



調査地及び過去の調査

※太線が調査区範囲・点線は推定を含む復元ライン  
薄い色は昨年度の調査